

第4回

小松市未来型図書館基本構想策定委員会

事業推進スケジュールについて

2022年12月12日（月）

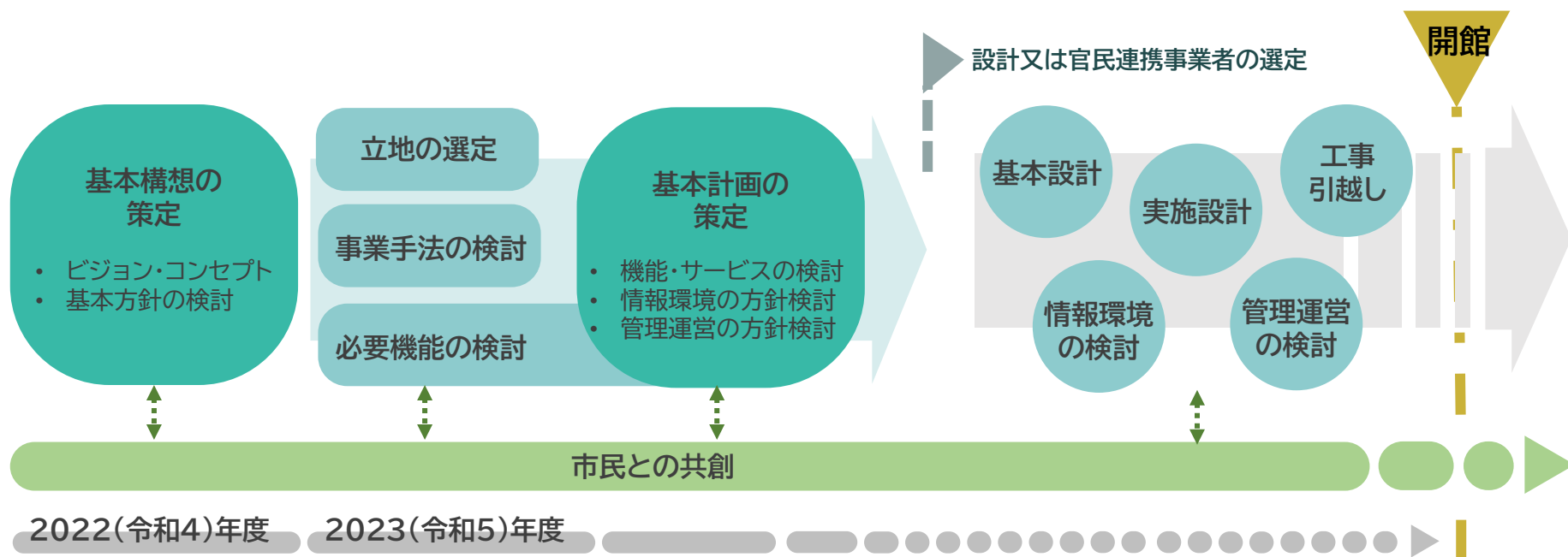


事業推進スケジュールについて

今年度の基本構想策定のなかでは、未来型図書館のビジョン・コンセプト、またそれに基づく基本方針を検討しています。今年度の結果を踏まえ、2023（令和5）年度以降、立地や事業手法等のさらに詳細な検討のステップを挟み、その後、検討結果を受けて基本計画を策定予定です。その後、設計や情報環境、管理運営の検討、工事等を経て開館となりますが、2023（令和5）年度に選定する立地・事業手法によって、具体的なスケジュールは変動します。今後の検討結果や状況に応じて、社会情勢の変化にも対応しつつ具体的な内容やスケジュールについて検討していきます。

また、市民とともにつくる未来型図書館として、すべての整備のステップ、また開館後においても、市民との共創を重視していきます。

2023(令和5)年度以降に必要となる検討のステップ



「未来型図書館」の整備検討を進めていくにあたり、意識しておくべき観点は以下の通りです。

次年度以降の検討を行う際に意識しておくべき観点

➤ ビジョン・コンセプトの実装、また検証と更新

- ・ 検討が進むなかで、各段階の各種検討事項においても、ビジョン・コンセプトが事業を貫くものとして齟齬なく着実に実装できるよう、各事項に対して連動した検討の方向性付けが重要になる。また、検討を進める中で、本事業とのズレがないか、ビジョン・コンセプトそのものに対しても随時検証を行い、場合によってはその更新行う。
- ・ 「未来型図書館」のビジョン・コンセプトを実装していくためには、既存の国内事例だけでなく、海外事例(ヘルシンキ中央図書館 Oodi、オーフス市中央図書館 Dokk1、ニューヨーク公共図書館等、規模には依らない方針や機能・サービス)の参照や、現状はないものを創造していくことも重要である。

➤ 多様な人びととの継続的・持続的な共創

- ・ 市民・行政に関わらず多様な人々による継続的・持続的な共創は、変わり続ける「未来」に向けた施設づくりに欠かすことはできない。より多様な参画のあり方・機会を検討していく必要がある。
- ・ 官民連携という観点からも、より相互的・創造的な対話によって、この地域だからこそ生まれる場づくりを検討していくことが重要となる。
- ・ 開館後も見据え、地域全体で施設の運営や場もつくり続ける体制づくりの検討を行っていく必要がある。

➤ 一体的な検討、柔軟性のあるスケジュールリング

- ・ 充実した整備や運営のためには、建築設計(ハード)と運営・プログラム(ソフト)の分断や組織の分断をできる限りなくした一体的な検討・整備の推進が重要となる。
- ・ 相互的・横断的な検討を確実かつ効果的に進めていくために、各段階での検討状況に合わせて柔軟に対応できるスケジュールリングの管理を行うことも必要となる。